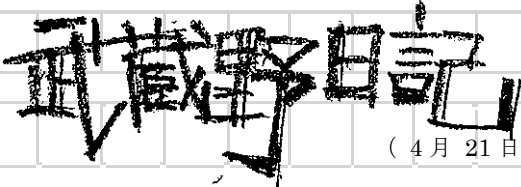


社会福祉法人 武蔵野 月報	武蔵野日記 第98号	発行日 平成30年6月1日
	発行人 社会福祉法人武蔵野	
	武蔵野市吉祥寺北町4-11-16	
	0422(54)7666	
(4月21日～5月24日)	6月1日現在	職員総数 312名

施設名称が決まりました！



2018年3月開所に向け準備を進めている障害者支援施設の名称が「わくらす武蔵野」に決定しました！

わくらすは「ワーク」＋「くらす」の造語。どんなに障害が重くても、社会とつながる「しごと（＝ワーク）」は必ずある。そして地域とのつながりの中でわたしらしく「くらす」こと、その両方を支えていきたいという思いを込めました。

準備室では現在、このコンセプトにマッチするような特色ある日中活動や生活支援の在り方を検討中です。次号以降の武蔵野日記でも検討の経過を随時発信していきたいと思っております！

【わくらす武蔵野の主な事業内容】

入所支援

障害のある人が地域で住み続けることができるために、40名（体験利用含む）の居住の場を作ります。重症心身障害のある方、最重度の知的障害のある方、自閉症の方など、様々な障害のある方が、ニーズや特性に合わせた生活ユニットで生活します。

生活介護

障害のある方の日中活動の場として、50名（入所者40名＋通所者10名）定員の新たな生活介護事業を開設します。

短期入所

市独自の「なごみの家」事業に、法定の短期入所を加え、ショートステイを拡充します。

相談支援

特定相談事業所として入居者はじめ市内の障害のある方の計画相談に応じます。

居宅支援

市内にお住いの重度障害者の地域生活を支援するため、重度訪問介護または行動援護行っていく予定です。

【まちぐるみの支え合い（地域包括ケアシステム）の仕組みづくりを目指して】

桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター・センター長 武永 慶志

桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センターでは、日々大変多くの相談を受けています。相談内容は「一人暮らしで身寄りがいない」「経済的な問題・家族の問題を抱えている」といった、より生活に込み入ったものが多く、私たちの地区における地域の特性や地域課題に触れていると感じています。

昨今少子高齢化の影響で、高齢者を支える現役世代が少なくなり、元気な高齢者も支え手にならないといけないといった背景もあり、「我が事、丸ごと」の地域づくりを目指すことが喫緊の課題になっています。そのような中で、私たちが担当する地域では、お一人暮らしの方が多くいらっしゃるため、地域の方たちと連携して、新たな食の提供を通じた「孤食」防止につながる取り組みを行っています。

また、私たちの担当地区で地域ケア会議（*）を開催し、地域の方たちや近隣の関係する機関の方たちが集まり、顔なじみの関係づくりや、地域の現状やニーズを把握するための情報交換を行っています。

その中で地域の方たちから「集いの場」をつくりたいとの意向が形になり、実際に立ち上げに至った事例もあります。このような地域の方たちの意向を形にするサポートも、大切な私たちの役割になっています。

今後はケアハウスを拠点とした施設としての機能を活かしながら、在宅介護・地域包括支援センターが窓口になって、地域で困っている高齢者の方々の個別対応から、地域の方たちと一緒に地域づくりに取り組んでいきたいと思えます。

（*）高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。



人材確保のとりくみ

デイセンター山びこ・ワークセンター大地・デイセンターふれあい施設長 本庄 一聖

当法人は来年3月の障害者支援施設の開所に伴う事業拡大により、さらに多くの職員を必要としています。この福祉人材難の時代に必要な職員数を確保するという指示を受け、昨年度から職員確保チームが結成されました。

私たちはまず求人活動ツールとしてのリクルートパンフレットを作成、これを持って近隣の福祉系大学を訪問して、キャリアセンター職員や知り合いの教員に直接お話に行きました（この動きは現在専門学校等にも広がっています）。

その後は広報担当とも連携して SNS (Facebook) を利用した当法人のアピールやホームページ求人サイトのリニューアルを行い、できるだけ多くの方にチェックしていただけるような取り組みを行いました。

そして各種就職フォーラムやセミナーへの参加です。これは会場にブースを設け来場者に法人の説明をしたり質問に答えたりするものです。来場者には法人見学説明会へのお誘いも行い、ここに参加していただいた方々を含めて採用試験に応募していただくという流れを作り実施しています。

私たちは法人の魅力を発信しこの仕事のやりがいを伝えながら、一緒に働いてくれる方を求めています。法人の大切な財産である職員、その確保の先には定着→育成→活躍という流れがあります。私たちはこの一連の流れの中でまず今年度は「確保」に全力を注ぎたいと思っています。

今年度は職員からの「紹介制度」もスタートしました。担当者だけが取り組むのではなく、理事長から事務局・現場の職員まで「一人一人がリクルーター」の意識をもって良い人材を確保できるようまだまだチャレンジは続いていきます。これからもみなさんの協力をお願いします。

5月 4日 (金)

ゆとりえ合唱団

第一、第三金曜日の午後は、「唱歌の会」という趣味活動の時間があります。ご利用者の方々が小さいころ歌っていた懐かしい歌や、慣れ親しんだ民謡等を歌っています。伴奏なしのアカペラで歌いますので、ご利用者、職員が互いにリードをしながら和気あいあいとした雰囲気です。

会の途中で、その日歌っている曲にまつわる思い出話をお伺いすると、「若い頃、旅行した場所だわ」「昔観た映画の主題歌ね」などと、沢山の素敵なお話が次から次へと出てきます。ご利用者の方々の表情もぱっと輝き心動くひとときです。

(武原 幸子)

ゆとりえデイサービスセンター



5月11日 (金)

多摩六都科学館での楽しいひと時

毎週金曜日の「みなさんと作る活動」では小グループに分かれてご利用者の好きな活動をご自分たちで企画し、実践しています。その中でも皆さんが楽しみにしているのが一日外出です。行きたい場所や体験してみたいことを出し合い、グループで話し合い、外出先を決めます。その結果、今回は「多摩六都科学館」への外出となりました。科学館では、宇宙体験のムーンウォークや不思議な音のなる部屋、プラネタリウムの視聴などを楽しみました。ランチは科学館の中のレストランに行き、地元の食材を使ったおいしい料理を堪能しました。身近な科学に親しんだ一日でした。

(土井 暢子)

デイセンターふれあい



5月21日 (月)

パワーアップした作業センター

4月から5月にかけて、作業センターでは、調布市役所様、府中市役所様など官公庁の封入封緘作業、美容製品やノベルティグッズの作業など、たくさんの仕事が次から次へと入りました。当初は、納期に間に合うか不安でしたが、4月に新しく2名のご利用者が加わったことや、それまで10時開始だった利用時間を4月から9時に変更したことなどで、多くのご利用者の働きにより、たくさんの製品を納期までに仕上げることができました。一件の仕事が終わるごとに、「やったー!」「納品に間に合った!」などの声が上がリ、達成感を感じている様子でした。

(木村 有希)

ワークセンターけやき



5月25日(金)

メリハリのある毎日に。

ワークセンター大地は3つの活動室に分かれて活動しています。第1活動室は受注作業を中心に取り組んでいます。入ってくる作業量は時期によって大きな差があります。今年度は作業量が少ない時には他事業所に協力してもらい、いつもと違う様々な作業に取り組むことや、外出や調理などの生活活動を積極的に取り入れ、メリハリのある毎日を目指したいと思っています。5月、その第1弾として外出を企画しました。

3つのグループ、行先に分かれて出かけ、いつもとは違う1日を楽しんできました。今月は作業量が一気に増えますので、しっかり頑張っていきたいと思います！ (早川 友紀)

ワークセンター大地



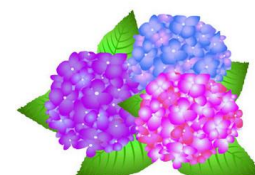
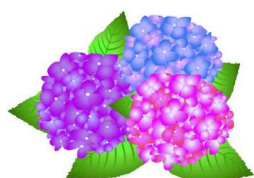
5月25日(金)

椅子を並べて、おあつまり

4月に7名の新入園児を迎えて、もうすぐ2ヵ月が経ちます。

椅子を並べて、そこに座ると、手遊び歌からおあつまりが始まります。教材に触りたかったり、注目がそれたりして、立ち歩こうとしていたお子さんも、「〇〇さん」とお友だちの名前が呼ばれると、そのお友だちに注目し、今日の天気を聞かれれば「晴れかな？曇りかな？」と、一緒に考えたりするようになってきました。お友だちと様々な遊びを共有して、お子さん同士がお互いに、どんな子なのかと、少し、わかり始めたところです。3月にはどんな集団に変化しているのか、今から楽しみです。 (小山 和子)

こども発達支援室ウィズ



事務局より

6月の予定

4日(月) 施設長会議
19日(火) 誰でも相談室
28日(木) 第1回評議員会

29日(金) 経営企画会議
30日(土) 2年目職員研修

<編集後記>

蒸し暑く、じとじとした梅雨が今にもやってきそうな天気が続いております。今年度は始めて2か月ですが、今年は残すところ半年、早くも折り返し地点です。今年度の目標は皆さん順調でしょうか。

これから始まる本格的な夏に向けて体調管理や暑さ対策等しっかりしていきましょう！
デイセンター山びこ 笠原 匠充

